

# 臨床検査科支部会報

<第3号>

2014年6月30日発行  
川崎医療短期大学同窓会（松丘会）  
臨床検査科支部  
〒701-0194 岡山県倉敷市松島 316  
E-mail douso2011@gmail.com

# e- PIPETTS

## 巻頭言

### 「残された時間」

後藤 幸策（1期生）

今年4月に佐々木先生の奥様に葉書を書きました。それは、3期生の柏野君が川崎病院の技師長に、4期生の佐藤君が倉敷成人病センターの技師長になり、また、岡本君が岡山県臨床検査技師会会長になったこと、六期生の河口君が川崎医大附属病院の技師長になったことをお伝えしました。奥様から返事が返ってきましたので一部をご紹介します。

この度は本当に嬉しいお知らせを頂きまして、ありがとうございました。さっそくお葉書を仏前に供え、「日本一の検査技師に育てるんだ！」と意気込んでいた亡き主人に報告しました。喜んでいることでしょう。皆さん本当に頑張っておられるんですね。

というお返事を頂きました。

卒業生が、技師長、事務長、博士、教授、技師会長、他にも重要なポストにつかれた人が沢山おられます。本当に川崎の卒業生が全国で活躍している話を聞くと嬉しくなります。

私は、昭和48年4月に川崎医療短期大学に入学し、51年3月に卒業して川崎病院に就職した。56年に佐々木先生が高知医大の教授になり、私は血液検査担当ということでお供することになった。佐々木先生は検査の革命的なベルトラインシステムを考案され、世界中にその変革をもたらした。言うまでもないが、中心的に活躍したのは教え子達である。62年4月に心臓病センター榎原病院に36才で技師長として赴任することになった。オーナーから言わ

れたことは、検査室の再建であった。人間教育から始まり、検査法の見直しと、立派な検査室にすることができた。そして平成22年8月に定年退職を迎えることになり、技師生活34年に幕を下ろすことになった。

退職後は、好きな庭、料理、釣り、SAXと好きなことをやっています。定年後は仕事も考えましたが、時間や職場の組織にしばられない生活の方を選びました。今では良い選択をしたと思っています。

ボランティアをふたつしております、一つはSAXでケアハウスでの音楽活動を、もう一つは岡山市の民生委員・児童委員をしております。

ケアハウスでは、デイサービスやグループホームでSAXを吹いて音楽療法をやっております。グループホームの認知症の方などはSAXを聞くと目がパッチリ開いてすごく笑顔になり手をたたいて喜んでくれます。この時、音楽の素晴らしさを痛感し、うれしくなります。

岡山市の民生・児童委員は昨年から活動しております。やることが多くて大変です。

民生委員は、定例会、研修会、地域のコミュニティー、安心・安全、交通安全、敬老会、一人暮らしの方の訪問、旭川荘の奉仕活動など色々あります。私の担当は340戸を受け持っています。65才以上の高齢者が230人ぐらいですが、これから益々と増えていきます。もちろん一人暮らしの方も増えます。3年前に担当地区で一人暮らしの方が死後3日後に発見されるということがありました。また昨年は、ライフラインが切られ死ぬ寸前で救出されるということもありました。いろいろなことがあります。

民生委員の役割は人の命を守るということからもしっかり見守っていかねばと思っています。

児童委員は、幼稚園や小学校の子供達に関わることで、卒業式、入学式、校長・園長との懇談会、青少年育成会、学童保育などこれもまたいろいろなことがあります。

子供は宝といいますが、この子供たちが将来の日本を担ってくれます。そう思うととてもうれしくなり、子供達をあたたく見守っていきたいと思います。

定年後は時間があつという間に過ぎていきます。お迎えがすぐ来るような気がします。

元気で心身共に楽しめる時間はそんなないように思われます。その時間を無駄にしないように残された時間の使い方を考えつつ、明日の希望につなげて行きたいと思っています。皆様のご多幸とご活躍を祈念しまして巻頭言のごあいさつとします。



### 母校の実習病院の技師長に就任して

川崎医科大学附属病院 中央検査部  
河口 勝憲(6期生)



平成26年4月1日より川崎医科大学附属病院中央検査部技師長を拝命いたしました6期生の河口勝憲です。母校の実習病院に卒業生として初めて技師長に就任するにあたり、身が引き締まる思いです。皆さま、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

近年、病院検査部を取り巻く環境はますます厳しくなっております。すなわち、高度な診療支援が求められる一方で、より効率的な医療経済の追及をしなければならないことです。当院は2010年1月1日から病院全体での電子カルテ化に伴い、中央検査部もLISや自動分析装置の更新が矢継ぎ早に行われ、4年が過ぎました。中央検査部の目標としては、「検査の効率化、省スペース化、TATの短縮、コストダウン、採血量の減量」と主に5つの目標を掲げ、半年間にわたり、事務部門を巻き込んだワーキング会議を行い、システムや機器・試薬選定、運用方法などが議論されました。4年が経過した現在におきましてはほとんどすべての課題をクリアすることができ、日常検査業務の効率化、医療サービスの向上、コストパフォーマンスなど、病院に大きく貢献できたと少なからず自負しております。今後とも、診療支援の質向上と経済性を重視しながら活気のある検査部のマネージメントに取り組んでいきたいと思っています。また、このことは学生の教育の場でも、検査部の在り方として伝承していきたいと考えています。

さて、大学病院の使命は、診療、教育、研究に加え地域への貢献と考えられています。特に、地域貢献としては、1998年に立ち上げた岡山県クロスチェックサーベイ（現在100施設が参加）は、全国的にも類を見ない外部精度管理手法として高い評価を得ており、県内の生化学項目は、ほぼ全てで標準化が達成されております。この事業を今後も益々充実させ、地域医療への貢献を実践していきたいと考えております。

最後に、「技術は磨くもの」、「技術は伝承するもの」、「技術は人のためにあるもの」と考えています。私は、これからも技術者としての本分を忘れず、検査部の活性化、そして学生も含めて次世代の育成に努めてまいりたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 附属川崎病院 中央検査部 技師長就任挨拶

### 技師長に就任して

建学の理念「人間をつくる 体をつくる 医学をきわめる」を思う

川崎医科大学附属川崎病院 中央検査部

柏野 明美(3期生)

ご無沙汰しております。臨床検査科3期生の柏野明美(旧姓：井上)です。川崎医療短期大学臨床検査科を卒業後、川崎医科大学附属川崎病院の中央検査部に勤務しております。このたび平成26年4月1日付けで、附属川崎病院中央検査部技師長を拝命いたしました。附属川崎病院は徳永前技師長が退職後、22年間技師長は不在でした。22年ぶりの技師長職に、より一層の責任感をもって仕事をして参りたいと思います。

本学の第一回ホームカミングデーに参加して、川崎学園の各部門の責任者・役職者が本学の卒業生だと知り驚きました。臨床検査科の卒業生に助けられて仕事を続けられたことをいつも感謝しておりますが、助けて下さる川崎学園の他部署の方々も本学の卒業生でした。川崎祐宣先生が昭和48年にコメディカルスタッフの養成機関として本学を開学されました。昭和の時代にコメディカルスタッフの養成の重要性を考えられた川崎先生の素晴らしさは言うまでもありませんが、昭和の卒業生は、川崎先生が考えられた建学の理念どおり成長し活躍されています。

平成28年度に附属川崎病院は岡山中央南(旧深祇)小学校跡地に新築移転します。新築移転準備に、中央検査部のスタッフと本学他科の卒業生とともに全力を尽くしたいと思います。

佐々木先生へ

佐々木先生から学生時代に「短大卒業後は、女子は嫁に行け、男子は技師長になれ」と言われていました。かつて可憐な乙女だった同級生は、嫁いだあとも働きつづけた目はおばさん、中身はおじさん(男前)になり多くは技師長になっております。佐々木先生がご存命なら、おじさんになった教え子にどのようなお言葉をかけていただけるかなと思います。やはり『なにやっちょるか』でしょうか。

## 第 63 回日本医学検査学会において優秀論文賞を受賞

古川 聡子 さん(18 期生)

### 第 63 回日本医学検査学会において優秀論文賞を受賞

平成 26 年 5 月 17 日 (土), 第 63 回日本医学検査学会において, 川崎医科大学附属病院勤務の 18 期生の古川聡子さんが優秀論文賞を受賞しました。

演題は「実測イヌリンクリアランスを基準とした日本および米国における GFR 推算式の比較」で, その概要は次の通りです。

本論文は, CKD 診療の中核となる糸球体濾過量 (GFR) の評価に関する新規知見をまとめた臨床研究の報告である。既に著者古川らは, 正確な GFR 測定に使用するイヌリンクリアランスを基に, 日常臨床で使用している各種腎機能マーカーを詳細に検討しその特徴を報告している。この時の知見をさらに発展させ, 今回はその際の Clinical Question “各種腎機能マーカーの臨床現場における使い分け” に関して, アメリカでの報告と比較して論じている。それぞれ推算式の特徴, 次いで臨床現場での使用時における注意点など記述しており, Real World に対応した学術かつ臨床論文として特筆すべき報告となっている。



## 支部長就任あいさつ

### 支部長に就任して 一同窓会に思うこと

川崎医科大学附属病院 中央検査部 主任技師  
川崎医療短期大学 松丘会 臨床検査科支部 支部長  
河口 豊



会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、日頃は臨床検査科支部へのご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、私儀、このたび舟田和幸前支部長の後を受け、新支部長に就任しました。つきましては、微力ながら臨床検査科支部の発展に努力いたす所存でございますので、今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

私は、平成18年より臨床検査科支部の事務部を8年間担当してきました。臨床検査科支部の運営には、実に多くの方々のご協力、ご指導を得て行われていますが、これまで私が経験してきたなかで、大切だなと感じたのは、「調査」、「計画」、「準備」、「(再会の)感動と感謝」です。管理業務における「PDCAサイクル」とは少し異なりますが、同窓会の行事も、十分な「調査」に基づく入念な「計画」が求められます。例えば、総会の講演会で講師の先生を選ぶのに、どんなジャンルの話を聞きたいか、その内容を専門的に研究している先生がいるか、しっかり調査します。講師の先生の日程確認や会場の予約や案内状の発送など、具体的な「計画(タイムスケジュール)」に基づき、実働スタッフが「準備」にはいります。後は実行(do)するだけですが、もちろん評価(check)もします。同窓会が経営管理論のPDCAと大きく異なるのは、心を豊にしてくれることだと思います。すなわち、「感動と感謝」の気持ちが互いの絆を深め、遠くにいても互いを気遣い、やさしい気持ちにさせてくれることだと思います。「久しぶりね」、「楽しかったわ」、「来て良かったわ」、「今の自分があるのも臨床検査科で頑張ってきたからよね」、「あそこ、先生には本当にお世話になりました」、「来てくれてありがとう」、「元気でまた会おうね」、懐かしい昔話に思いをはせて、お互いの未来にエールを送りあう、これが同窓会の真骨頂だと思います。今後とも、「感動と感謝」の気持ちを大切に支部の運営ができればと思っています。

さて、近年の同窓会活動においては、短大生の就職支援にも力をいれています。同窓生は様々な機能の医療機関に就職しています。就職で悩む学生にとって、先輩の経験談や施設の概要説明は、まさに「目からうろこが落ちる」内容ばかりです。今後とも多くの方々に短大に来ていただいて、後輩たちに助言していただくよう、企画してまいりたいと考えています。

# 短大からの近況報告

## 短大 News

川崎医療短期大学 臨床検査科  
衣川 菜美(33期生)

新年度になってから早3カ月が過ぎようとしています。4月は入学式や学外研修、5月はドッジボール大会、スポーツ大会、オープンキャンパスなど、慌ただしく日々が過ぎていきました。



入学式 (4/3)



新入生学外研修 (4/26)



ドッジボール大会 (5/17)



第1回オープンキャンパス (5/25)



第2回オープンキャンパス (6/22)

## 附属川崎病院からの近況報告

### 附属川崎病院から近況報告(新病院移転状況)

川崎医科大学附属川崎病院 中央検査部  
見手倉 久治(16期生)

川崎医科大学附属川崎病院は、昭和14年に現在地の岡山市北区中山下に外科川崎病院を開院して以来、75年の歴史を刻んできました。臨床検査科の病院実習の現場として川崎医科大学とともに皆様にも思い出がある病院と思います。平成23年4月に学校法人川崎学園が病院事業を承継して、今年は4年目となりました。業務内容や診療体制の強化と整備が進められています。その一環として、建物の老朽化や進化する医療情勢に対応するために地域住民の方々のご支援もあり、新病院の建築が進んでいます。移転場所は現在の病院から数百メートルに位置している小学校跡地です。既存校舎等の解体工事や埋蔵文化財の発掘調査の後、平成25年9月26日に起工式を行って同年12月から建築工事がスタートしました。工期は、地下工事11か月、地上工事22か月の合計33か月の計画で、竣工は平成28年8月の予定です。現在は掘削工事を行っており、3か月の工事では一番深い所では約6mの掘削が進んでおり、今後最深部では14mとなります。

「川崎医科大学の附属病院として安全・安心な医療を提供し、地域と共生する病院」という理念に基づいて、各部門の設計や設備の調整が行われています。数年後の医療に対応できる病院として、中央検査部でも診療支援の中核を成すべく各部門との調整を行っています。今後の進展状況など定期的にお伝えできればと思っています。

#### 〈新病院の概要〉

- 敷地面積 : 約 12,080 m<sup>2</sup>
- 建築面積 : 約 5,680 m<sup>2</sup>
- 延面積 : 約 78,900 m<sup>2</sup>
- 建物構造 : RC造+S造、免震構造
- 規模 : 地下2階、地上15階
- 病床数 : 704床
- 地下駐車場 : 約280台

最新情報は、病院ホームページの「新築移転について」をご覧ください。

<http://www.kawasaki-m.ac.jp/kawasakihp/info/byouinshinchiku.php>



2014年4月の様子



新病院外観予定図

## お知らせ

### 松丘会臨床検査科支部 事務部

川崎医科大学附属病院 中央検査部

石松 昌己(18期生)

今年度より、松丘会臨床検査科支部の事務部長を拝命致しました18期生の石松です。微力ながら、一生懸命努めてまいり所存です。皆様のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

本年度最初の事業として、臨床検査科支部代表者を4月19日に開催しました。今回の議題においての大きな変更点は、支部長の交代をはじめとする組織運営図の改正および会則の改正がありました。主な会則の改正点は、『(役員)理事 若干名を事務部長 1名、学術企画部長 1名、本部役員 若干名』に変更しました。これに伴い、『(役員)事務部長 会計事務および総務を処理する。学術企画部長 学術および企画関連事務を処理する。本部役員 本部との緊密な連携をとる。』を追加しました。さらに従来まで、『(援助金)各期同窓会開催に対して、30,000円/年1回とする。』となっていたが、『各期同窓会開催に対して、30,000円/年1回とする。20名以上の参加者が予定される場合、50,000円/年1回とする。』に変更となりました。今後、各期同窓会の開催が活発に行われることを期待しています。

さて、この秋に第47回中四国支部医学検査学会開催されますが、この学会期間中に臨床検査科支部合同同窓会を予定しています。代表幹事として、愛媛大学医学部附属病院に勤務されている35期生の玉置 南さんをお願いしています。2014年9月13日(土)19時30分から「活魚居酒屋 壺々炉(こころ)大街道店」で行う予定です。詳細なお知らせは、8月上旬にホームページに掲載します。万障お繰り合わせの上、ご参加くださいますよう宜しくお願い致します。